



◆生育状況について

現在の生育は、満開で昨年比7日程度早い状況です。作業の遅れがないよう進めて下さい。

平地	本年	R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28
発芽	3/22	3/26	3/22	3/21	3/26	3/26	4/5	3/24
展葉	3/31	4/6	3/31	4/7	4/12	4/1	4/12	4/1
開花始	4/12	4/21	4/17	4/27	4/26	4/19	4/23	4/17
満開	4/17	4/24	4/21	5/2	4/30	4/22	5/2	4/21
落花	4/22	4/28	4/26	5/7	5/3	4/28	5/7	4/27

◆4月9・10日凍霜害状況と対応について

当日は、管内の観測地点でもマイナス温度となり、9日は標高の高い地域で降雪となり、低温となった。

10日は、降霜があり凍霜害被害が確認された。

りんごでは、一部の園地で秋映等の中心花の柱頭や胚の枯死が確認された。現状では大きな被害となっていないが、時間が経過するとともに、影響がみられてくる場合もあり、中心花の軸が短くなる、サビの発生が心配されるため、自園の状況をよく確認する。

当面の対応として、①健全な中心果が十分あれば、通常通り摘果を進める。②中心果が使えない場合は、側果（ふじ以外は品質低下となるが）を利用し、着果量を確保する。

◆中心花の無い場合・変形果（花）の対応について

①ふじ・・・着果が少ない場合は側花（果）で対応し着果量を確保する。

②その他の品種・・・着果（花）量が多い場合は花そうごと摘果（花）する。

着果量が少ない場合は上枝の着果量を増やすか、側花（果）で対応する（サビ果・変形果など品質低下はする）

◆当面する重点作業について

1. 降雨が少なく、乾燥状態が続いている場合は、10a 当り、20～30mm程度の定期的なかん水を積極的に行い、玉肥大を促す。基本的には晴天が5日以上続き乾燥状態になる前にかん水を実施する。
2. 摘果は「がく立ち」を確認でき次第、着果位置にこだわらず早期にあら摘果を実施する。
あら摘果は隔年結果しやすい「ふじ」から実施し、満開30日まで終わらせることを基本とする。
3. 第5回薬剤散布を適期に行い、各病害虫の予防防除に努める。
4. フラン病の発生が散見されています。（特に胴フラン）見つけ次第処分を行う。
5. 毎年メンチュウの発生が見られる所は、背中の徒長枝や根元のヒコバエを整理し風通しを良くする。
6. 背中の新梢（徒長枝）は30cmに1本残り日焼け防止や側枝育成用とする。
7. 計画的に下草管理を行う。

◆第5回の薬剤散布について

1. 散布時期・・・5月5日(金)～9日(火)

散布日 月 日

2. 調合量・・・水100ℓ 当り

展着剤・・・10mℓ

コロナフロアブル・・・250mℓ (うどんこ病)

⑩モスピラン顆粒水溶剤・・・25g (キンモンホソガ・アブラムシ類・シンクイムシ類)

ペンコゼブ水和剤・・・200g (黒星病・黒点病・斑点落葉病)

3. 散布量・・・10a 当り⇒400ℓ

4. 散布上の留意事項

- ①カルシウム欠乏の発生が多い園では、スイカル300倍(水100ℓ当り330g)を加用する。
少発生園では、スイカル又はカルビタ1,000倍(水100ℓ当り100g)カルタスまたはストピットII 500倍(水100ℓ当り200g)を使用してもよい。なお、ストピットIIは果面保護の効果もある。
- ②落花20日前後はサビ果が発生しやすい時期のため、展着剤の量が多くならないように注意する。また、多種の薬剤の混用も避ける。
- ③うどんこ病が多い場合は、コロナフロアブルに代えてイオウフロアブル500倍(水100ℓ当り25g)を使用してもよい。
- ④アブラムシ類の発生が多い場合は、モスピラン顆粒水溶剤を2,000倍(水100ℓ当り50g)に代えて使用してもよい。

◆適正着果(新わい化含)・病虫害防除等 講習会開催について

次の日程により講習会を開催しますので、都合のよい会場で受講して下さい。

開催日	曜	時間	集合場所	担当
5月16日	火	午前 9:30	会行之橋東側	外谷
			塩崎第1共選所北側(稻荷山駅前通)	寺澤
			小林 英一様園(御厨)	佐藤
		午前10:00	小林 隆雄様園(梵天)	根津
		午前11:00	西部流通センター	寺澤
		午後 2:00	宮崎 成一様園(青木島・大塚)	根津
福島 宏之様園(瀬原田)	寺澤			
5月17日	水	午前 9:30	柳沢公民館前	寺澤
		午前11:00	有旅公民館前	寺澤
		午後 2:00	中真島中央道(真島)	根津
5月18日	木	午前 9:30	中村 安利様園(東条)	松橋
		午前11:00	若穂営農資材センター前(川田)	松橋・元田
5月19日	金	午後 1:30	若穂果実流通センター前(綿内)	根津・元田
5月22日	月	午前10:00	山新田公会堂(綿内)	外谷・元田

◆ハダニ対策について

下草(ヒメオドリコ草・ギンギン等)を観察し、ハダニの発生が多い場合には、バスタ液剤又はザクサ液剤(水150ℓ当り500ml)を散布する。除草を図るとともに、ハダニの密度を減らす。りんごの枝葉には絶対かけない。

また根元のヒコバエを切り取って直ぐに切り口に散布すると吸収されて薬害が出る場合があるので注意する。

◆新しい化栽培について

1. 樹勢の判断について ※平年の生育進捗の場合

①新梢の停止時期で判断します。

②5月10日前後に停止・・・極めて弱樹勢。硫安10kg/10aの施肥と葉面散布(尿素500倍)

5月20日前後に停止・・・弱樹勢。葉面散布を行う。尿素500倍(水100ℓ当り200g)

5月30日前後に停止・・・適正。満開40日前後でほぼ100%の新梢停止。

2. 苦土(マグネシウム)欠乏について

①5月中下旬頃に発生しやすい。新梢伸長が旺盛な若木は激発しやすい。

②シナノドルチェ・秋映・シナノゴールド等が出やすいが、ふじやつがるでも発生する。

③グリーントップ500倍(100ℓ当り200g)を2回程度、薬剤散布に加用して軽減する。

3. 施肥について

①成木の全品種共通 時期：5月中旬～6月

内容：「硫安」1樹20g前後 樹勢・着果量に応じて調整する。

「硫マグ25」2袋/10a当り

②定植1年目は、5月中下旬以降に主幹伸長を確認しながら、必要に応じて7月末まで窒素施用する。

2週間間隔で2～3回、「硫安」を1樹当たり20～30g施用する。

③定植2年目は、5月中下旬に樹勢が弱い場合は「有機専科」を10a当り1袋施用する。

《栽培に関する問合せ》

寺澤(篠ノ井西部・信田)：080-1188-5229/外谷(篠ノ井東部)：080-8048-6602

松橋(松代)：090-4816-6297/佐藤(川中島)：090-7179-9866

根津(更北) 080-1203-8576/元田(若穂) 282-2002

吉澤(全域・編集担当)：090-2543-0365/営農販売部(本所)：292-0930

○果樹のアドバイザー(流通センター長兼務)

松澤(若穂) 080-1191-5166/伊藤(篠ノ井東部) 080-2239-6816

松坂(篠ノ井西部) 080-1188-4131

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所/営農販売部(本所)：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部/農業資材課：299-3311